

# HP Network Node Manager i Software

Windows<sup>®</sup> および Linux<sup>®</sup> オペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン : NNMi 10.10

---

HP Network Node Manager i Software - HP SiteScope 統合ガイド

ドキュメントリリース日 : 2015 年 11 月  
ソフトウェアリリース日 : 2015 年 11 月



## ご注意

### 保証

HP 製品とサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。HP では、ここに記載されている技術的、または編集上の不正確さや脱漏については責任を負いません。

ここに記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。

### 権利制限について

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP が提供する有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に準拠し、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダーの標準商用ライセンスの下、米国政府にライセンスされています。

### 著作権について

© Copyright 2008-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標に関する通知

Adobe® は Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Apple は、Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ は、Google Inc. の登録商標です。

Intel®, Intel® Itanium®, Intel® Xeon®, および Itanium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国の商標です。

Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Lync、Microsoft、Windows、および Windows Server は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle および Java は Oracle およびその関連会社の登録商標です。

Red Hat® Enterprise Linux Certified は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。

sFlow は、InMon Corp の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

### Oracle テクノロジーの制限された権限に関する通知

国防省連邦調達規則補足 (DOD FAR Supplement) に従って提供されるプログラムは、「商用コンピューターソフトウェア」であり、ドキュメントを含む同プログラムの使用、複製および開示は、該当する Oracle 社のライセンス契約に規定された制約を受けるものとします。それ以外の場合は、連邦調達規則に従って供給されたプログラムは、「制限されたコンピューターソフトウェア」であり、関連文書を含むプログラムの使用、複製、および公開は、FAR 52.227-19、『商用コンピューターソフトウェア - 制限された権限』(1987年6月)に記載されている制限に従うものとします。Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracle ライセンスの全文は、NNMi の製品 DVD にある license-agreements のディレクトリを参照してください。

2015年11月

## 謝辞

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org>) で開発されたソフトウェアが含まれています。

この製品には、Visigoth Software Society (<http://www.visigoths.org/>) で開発されたソフトウェアが含まれています。

## 利用可能な製品ドキュメント

で入手可能なドキュメントの完全なリストについては、『ドキュメント一覧』を参照してください。このドキュメントは、HP マニュアル Web サイト上にあります。このファイルを使用して、このバージョンのドキュメントセットにある追加や改訂を調べることができます。リンクをクリックして、HP マニュアル Web サイト上のドキュメントにアクセスします。

HP マニュアル Web サイトでは、NNMi、NNMi Premium、NNMi Ultimate 用の完全なドキュメントセットの .zip ファイルも入手できます。これらのドキュメントパッケージは、『ドキュメント一覧』または HP マニュアル Web サイトから直接アクセスできます。

最近の更新を確認する場合、または最新のドキュメントを使用しているか確認する場合は、以下をご覧ください。

**<https://softwaresupport.hp.com>**

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

**<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>**

または、HP ソフトウェアサポートページの上にある [Register] リンクをクリックします。

製品のサポートサービスに登録すると、最新版を入手できます。詳細は HP 販売員にお尋ねください。

## サポート

次の HP ソフトウェアサポートオンライン Web サイトを参照してください。

**<https://softwaresupport.hp.com>**

この Web サイトには、製品、サービス、および HP Software が提供するサポートの問い合わせ情報および詳細が記載されています。

HP ソフトウェアオンラインサポートには、お客様の自己解決機能が備わっています。ビジネスを管理するために必要な対話形式のテクニカルサポートツールにアクセスする迅速で効率的な方法が用意されています。お客様は、サポート Web サイトで以下の機能を利用できます。

- 関心のあるドキュメントの検索
- サポートケースおよび拡張リクエストの送信および追跡
- ソフトウェアパッチおよび関連パッチのドキュメントのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問合せ先の検索
- 利用可能なサービス情報の確認
- ソフトウェアを利用している他のユーザーとの情報交換
- ソフトウェアトレーニング情報の検索および参加登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザー ID のご登録は、以下の URL で行ってください。

**<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>**

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

**<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>**

HP Software Solutions Now は、HPSW ソリューションおよび統合ポータル Web サイトにアクセスします。このサイトでは、ビジネスニーズに合った HP 製品ソリューションを調べることができ、HP 製品間の統合の完全なリストや ITIL プロセスのリストが含まれています。この Web サイトの URL は以下のとおりです。

**<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>**

# 目次

HP NNMi-HP SiteScope イベント統合.....	7
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合について.....	8
値.....	8
統合製品.....	8
サポートされる SiteScope モニター.....	8
ドキュメント.....	8
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の有効化.....	9
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の使用法.....	10
SiteScope オブジェクトの識別に使用される SNMP トラップ形式.....	11
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の変更.....	13
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の無効化.....	13
HP NNMi-HP SiteScope イベント統合のトラブルシューティング.....	13
NNMi インシデントビューに SiteScopeAlertEvent インシデントが表示されない.....	14
HP SiteScope が SiteScope インシデントの URL から正常に開かない.....	14
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックスの統合.....	15
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックスの統合について.....	15
価値.....	16
統合製品.....	16
サポートされる SiteScope モニター.....	17
ドキュメント.....	17
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の有効化.....	17
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の使用法.....	20
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の変更.....	23
HP NNMi から NPS への接続の変更.....	23
HP SiteScope から HP NNMi への接続の変更.....	23
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の無効化.....	24
HP NNMi から NPS への接続の無効化.....	24
HP SiteScope から HP NNMi への接続の無効化.....	24
HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合のトラブルシューティング.....	24
統合データフローを確認する.....	25
統合設定の HP NNMi 側の確認.....	26
ファイアウォールの背後の NAT 構成環境にノードのレポートデータが存在しない.....	27
[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームのリファレンス.....	28



# HP SiteScope

HP Network Node Manager i Software (HP NNMi) に対して、ネットワークモニタリングに使用されるイベントコンソールである HP SiteScope をデータコレクターとして使用できます。HP SiteScope は、HP NNMi がモニタリングしているシステムのアプリケーション側をモニタリングし、SNMP トラップを使用してイベントデータを HP SiteScope から HP NNMi に転送します。HP SiteScope では、メトリクスデータを HP NNMi にレポートすることもできます。

HP SiteScope のご購入については、HP 営業担当者にご相談ください。

この章では、以下の統合について説明します。

- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合 ページ 7](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリクスの統合 ページ 15](#)

NNM iSPI for IP Telephony–HP SiteScope 統合の詳細については、NNM iSPI for IP Telephony ヘルプの「SiteScope との統合の設定」を参照してください。

---

## HP NNMi–HP SiteScope イベント統合

この項では以下の内容について説明します。

- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合について ページ 8](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合の有効化 ページ 9](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合の使用法 ページ 10](#)
- [SiteScope オブジェクトの識別に使用される SNMP トラップ形式 ページ 11](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合の変更 ページ 13](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合の無効化 ページ 13](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope イベント統合のトラブルシューティング ページ 13](#)

## HP NNMi-HP SiteScope イベント統合について

HP NNMi-HP SiteScope イベント統合により、設定された SiteScope モニター警告条件が満たされると、SiteScope サーバーは SNMP トラップを NNMi 管理サーバーに送信します。HP NNMi は、そのモニター警告トラップを NNMi インシデントに変換します。これらのインシデントから、NNMi コンソールユーザーはそのモニターのコンテキストで HP SiteScope を起動できます。NNMi 管理サーバーにメッセージを送信する SiteScope オブジェクトの識別に使用される SNMP トラップ形式のリストについては、11 ページの表 1 を参照してください。


### 値

HP NNMi で SiteScope インシデント設定を行うことにより、HP NNMi-HP SiteScope イベント統合では、SiteScope で監視するデバイスおよびアプリケーションのステータスに関する SNMP トラップの解釈プロセスが簡素化されます。

これらのトラップは、HP SiteScope で設定されたアラートに対してのみ生成されます。統合により、これらのトラップがインシデントとして NNMi コンソールに表示されます。HP SiteScope で警告条件が解消された（正常になった）ことが示されると、HP NNMi はこれらの警告インシデントを自動的に閉じます。

### 統合製品

このセクションの情報は、以下の製品に当てはまります。

- HP SiteScope
  - サポートされるバージョンのリストについては、 <http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> にある『NNMi システムとデバイス対応マトリックス』を参照してください。
- NNMi 10.10

HP NNMi および HP SiteScope は、同一のコンピューターまたは異なるコンピューターにインストールできます。

サポートされているハードウェアプラットフォームおよびオペレーティングシステムの最新情報については、両方の製品の対応マトリックスを参照してください。

### サポートされる SiteScope モニター

HP NNMi-HP SiteScope イベント統合では、HP SiteScope に設定されたとおりに、すべての SiteScope モニタータイプに関して SiteScope サーバーから送信される SNMP トラップを受信します。SiteScope アラート設定には、NNMi 管理サーバーをトラップターゲットとして組み込む必要があります。

SiteScope トラップ設定によって、ソースオブジェクトとして SiteScope サーバーと管理対象ホストのどちらが設定されるかが決まります。ソースオブジェクトが HP NNMi で管理されていない場合、[インシデント設定] フォームの [未解決の SNMP トラップを破棄する] チェックボックスの設定によって、HP NNMi でのトラップの処理方法が決まります。詳細については、NNMi ヘルプの「未解決受信トラップの処理」を参照してください。

### ドキュメント

このセクションでは、この統合の設定方法と使用方法について説明します。

SiteScope で実行される手順の詳細については、HP SiteScope 製品メディアに収録されている『SiteScope の使用』ガイドを参照してください。



## HP NNMi–HP SiteScope イベント統合の有効化

HP NNMi–HP SiteScope イベント統合を有効にするには、SNMP トラップが HP NNMi に送信されるように、1 つ以上の SiteScope モニターを設定します。大まかな手順は、以下のとおりです。



NNMi インシデントタイプは、デフォルトで有効になっています。

- 1 SiteScope のユーザーインターフェースで、SiteScope イベントトラップが NNMi 管理サーバーに送信されるように SNMP 設定を作成します。SiteScope で **[設定]** > **[SNMP プリファレンス]** を選択し、**[SNMP プリファレンス]** ページを使用して、送受信の両方の SNMP トラップ設定を設定します。以下の設定を使用して、SNMP トラップのレポート先となるサーバーの設定を作成します。
  - a **SNMP トラップ ID:** **[企業固有 SNMP トラップ ID]** を選択し、1 と入力します。
  - b **SNMP オブジェクト ID:** **[事前設定 SNMP オブジェクト ID]** を選択し、リストから **[HP SiteScope イベント]** を選択して、**[システム OID を SNMP トラップにプレフィックスとして追加します]** をオフにします。
  - c **[システム OID を SNMP トラップにプレフィックスとして追加します]** がオフになっていることを確認します。**[システム OID を SNMP トラップにプレフィックスとして追加します]** チェックボックスはオンにしません。

必要に応じて、ほかの SNMP トラップフィールドを完了します。ユーザーインターフェースの詳細については、SiteScope ヘルプの「SNMP プリファレンス」(SNMP preferences) セクションを参照してください。

- 2 SiteScope ユーザーインターフェースで、SNMP トラップ設定をアラートアクションターゲットとして設定するアラートを作成しますこのアラートで、可能性のあるモニターステータスごとにアラートアクションを作成します。以下の手順を完了したら、10 ページの [図 1](#) を参照してください。
  - a SiteScope モニターツリーで **[SiteScope]** ルートを右クリックし、**[新規作成]** > **[警告]** を選択します。
  - b **[警告ターゲット]** パネルで、この警告をトリガーするグループ、モニター、またはその両方を選択します。
  - c **[警告アクション]** パネルで、**[新規警告アクション]** をクリックし、**[SNMP トラップ]** アクションタイプを選択します。
  - d **[警告アクション: SNMP トラップ]** ダイアログボックスで、モニターステータスごとに SNMP トラップの警告アクションを設定します。
    - **[アクションタイプの設定]** パネルで、**[テンプレート]** リストから **SiteScopeEvent.xml** を選択します。このテンプレートには、SNMP トラップがトリガーされると SNMP から NNMi に送信されるメッセージの形式と内容が含まれています。次のファイルにあるこのテンプレートは、コピーおよびカスタマイズできます。  
 <SiteScope root directory>\templates.snmp
    - **[状態トリガ]** パネルで、SNMP トラップのステータスを選択します。
    - **[状態トリガ]** パネルで、モニターステータス (**[エラー]**、**[注意域]**、**[正常]**、**[利用不可]**) ごとに **手順 c** を繰り返します。

図 1 各モニターステータスの SNMP トラップ警告アクションの設定

	Name	Category	When	Schedule	Target
	NNMi Integration - Error action	Error	Once, after 1 times	every day, all day	NNMi - vmamrnd1...
	NNMi Integration - Good action	Good	Once, after 1 times	every day, all day	NNMi - vmamrnd1...
	NNMi Integration - Warning a...	Warning	Once, after 1 times	every day, all day	NNMi - vmamrnd1...
	NNMi Integration - n/a action	Unavailable	Once, after 1 times	every day, all day	NNMi - vmamrnd1...

- 3 モニターステータスの変更により SiteScope で警告がトリガーされると、SNMP トラップが NNMi 管理サーバーにレポートされます。NNMi は SNMP トラップを読み取り、属性を変換し、NNMi の [インシデントの参照] ワークスペースに SiteScope イベントデータを表示します。

## HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の使用法

HP NNMi では、SiteScope モニターアラートトラップとして 2 つのインシデントタイプを定義しています。

- SiteScopeAlertEvent1 は SNMPv1 形式のトラップを NNMi インシデントに変換します。
- SiteScopeAlertEvent2 は SNMPv2c 形式のトラップを NNMi インシデントに変換します。

これらのインシデントタイプの設定はまったく同じです。HP SiteScope から HP NNMi に送信するトラップの形式に SNMPv1 形式と SNMPv2c 形式のどちらを使用するかは、SiteScope の SNMP トラップ設定で指定します。

インシデント設定内で、インシデントの重大度は以下のように設定されます。

- デフォルトのインシデントステータスは危険域で、SiteScope イベントの重大度であるエラー、NOTAVAILABLE、または NODATA にマップされます。
- インシデント強化では、SiteScope イベント重大度が注意域の場合に、インシデントステータスを注意域に設定します。
- インシデント強化では、SiteScope イベント重大度が正常の場合に、インシデントステータスを正常域に設定します。

各 SiteScopeAlertEvent トラップには、そのモニターのコンテキストで SiteScope を起動するための URL が含まれています。この URL は、[インシデント] フォームの [カスタム属性] タブの .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 カスタムインシデント属性 (CIA) に含まれています。この URL は、統合ビューアーユーザーとして SiteScope にログオンするための暗号化された資格証明を渡します

SiteScopeAlertEvent インシデントごとに、HP NNMi は、トラップのペイロードに含まれているデータを比較することで、SiteScopeAlertEvent トラップで Pairwise 処理を実行します。各トラップにはイベントキー varbind (OID .1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.7) が含まれています。トラップにイベントクローズキーパターン varbind (OID .1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.8) も含まれている場合、HP NNMi は、イベントクローズキーパターン varbind の値を、既存のインシデントのイベントキー varbind と比較します。HP NNMi は、一致する既存のインシデントを閉じ、着信トラップに従ってそれらを関連付けます。HP NNMi は、解決済みの各インシデントに、cia.reasonClosed CIA と関連ノートを追加します。さらに、HP NNMi は、[正常域] ステータスの各 SiteScopeAlertEvent インシデントを自動的に閉じます。

SiteScope SNMP トラップは、システムおよびアプリケーションファミリーで表示されます。

SiteScopeAlertEvent トラップの内容の詳細については、HP NNMi とともに配布される HP-SITESCOPE-MIB を参照してください。

## SiteScope オブジェクトの識別に使用される SNMP トラップ形式

表 1 に、NNMi 管理サーバーにメッセージを送信する SiteScope オブジェクトの識別に使用される SNMP トラップ形式のリストを示します。これにより、NNMi コンソールユーザーはそのモニターのコンテキストで SiteScope を起動できます。

SNMP トラップ形式は、SiteScopeEvent.xml ファイルに保存されます。このファイルは、<SiteScope root directory>\templates.snmp フォルダにあります。

表 1 NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	説明	値
エンタープライズ OID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1	SiteScope ルートオブジェクト ID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1
トラップ OID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.0	SNMP トラップオブジェクト ID	(OID) V1 の場合： [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.0.1] V2 の場合： [1.3.6.1.4.1.11.15.1.4.1]
SiteScope ホスト	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.2	SiteScope サーバーの IP アドレスまたはホスト名	(IpAddress) [16.55.244.182] または (OctetString) [sisserver.mydomain]
プロバイダー (コレクター)	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.1.3	SiteScope アプリケーション名	(OctetString) SiteScope
モニター名	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.1	SiteScope モニター名	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
モニタータイプ	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.2	SiteScope モニタータイプ	(OctetString) [Memory Monitor]

表 1 NNMi に送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式 ( 続き )

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	説明	値
モニター ID	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.3	一意のモニター ID	(OctetString) [067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]
セキュリティ保護されたモニタードリルダウン URL	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4	サイレントログオン情報なしで、警告が発生したモニターのコンテキストで SiteScope を開く URL。統合インスタンスレベル別に設定できます。ユーザー資格証明のあるドリルダウン URL を取得するには、参照値を monitorDrilldownUrlSecured から monitorDrilldownUrl に変更します。	(OctetString) http://sisserver:8080/SiteScope/servlet/Main?activeid=_SiteScopeRoot__&activerighttop=dashboard&view=new&dashboard_view=Details&dashboard_model=true&dashb
モニターのターゲットホスト	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.5	モニターのターゲットホスト	(IpAddress) [16.55.244.182] または (OctetString) [myhost.mydomain]
モニターターゲット IP	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.6	モニターのターゲット IP アドレス	(IpAddress) [16.55.244.182]
モニター完全名	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.7	ルートからのフルパスを含む、SiteScope モニター名	(OctetString) [Memory monitor on myhost.mydomain]
タイトル	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.1	SiteScope イベントタイトル	(OctetString) [Alert 'Memory Alert' was triggered on monitor 'Memory monitor on myhost.mydomain' due to a status change]
イベントソース	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.2	イベント ( 警告またはメトリックス ) のソース	(OctetString)
重要度	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.3	SiteScope イベントの重大度	(Integer) [0,1,2,3] [unavailable, good, warning, error] に対応
イベント時間	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.4	元のイベント時間 ( ミリ秒単位 )	(TimeTicks) 1287316779
価値	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.5	( 警告フロー用ではない )	(OctetString) [running]、[25]、[n/a] のいずれか - 警告用

表1 NNMiに送信される SiteScope オブジェクトの SNMP トラップ形式(続き)

フィールド名	オブジェクト ID (OID)	説明	値
イベントの説明	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.6	起動されたイベントの説明	(OctetString)
イベントキー	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.7	イベントのキー	(OctetString) [sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00:Memory]
イベントクローズ キーパターン	.1.3.6.1.4.1.11.15.1.3.1.8	一对のイベントを識別するためのキー	[sisserver:067e6162-3b6f-4ae2-a171-2470b63dff00]

## HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の変更

HP NNMi-HP SiteScope イベント統合を変更するには、以下のいずれかを実行します。

- NNMi コンソールで、SiteScopeAlertEvent1 および SiteScopeAlertEvent2 SNMP トラップのインシデント設定を編集します。
- SiteScope ユーザーインターフェイスで、モニターアラート設定を変更します。

## HP NNMi-HP SiteScope イベント統合の無効化

HP NNMi-HP SiteScope イベント統合を無効にするには、以下のいずれか、または両方を実行します。

- NNMi コンソールで、SiteScopeAlertEvent1 および SiteScopeAlertEvent2 の [SNMP トラップの設定] フォームの [有効にする] チェックボックスをオフにします。
- SiteScope ユーザーインターフェイスで、以下のいずれかを実行します。
  - モニターおよびグループをアラートアクションターゲットから削除する。
  - SiteScope モニターに関連付けられた SNMP トラップアラートを無効にするか、削除する。

## HP NNMi-HP SiteScope イベント統合のトラブルシューティング

この項では以下の内容について説明します。

- NNMi インシデントビューに SiteScopeAlertEvent インシデントが表示されない ページ 14
- HP SiteScope が SiteScope インシデントの URL から正常に開かない ページ 14

## NNMi インシデントビューに SiteScopeAlertEvent インシデントが表示されない

NNMi インシデントビューに予期されるすべての SiteScopeAlertEvent インシデントが表示されない場合は、以下の手順を実行します。

- 1 NNMi コンソールで、SiteScopeAlertEvent1 と SiteScopeAlertEvent2 のインシデント設定を調べます。
  - SiteScopeAlertEvent1 と SiteScopeAlertEvent2 のインシデントタイプが有効になっていることを確認します。
  - インタフェースまたはノードが設定されている場合は、予期される SiteScope トラップがそれらの設定によってブロックされていないことを確認します。
- 2 NNMi コンソールで、インシデントビューのフィルターを調べます。  
現在のフィルターを SiteScopeAlertEvent1 と SiteScopeAlertEvent2 のインシデント設定と比較します。フィルターがそれらのインシデントタイプをブロックしていないことを確認します。
- 3 [インシデント設定] フォームの [未解決の SNMP トラップを廃棄する] チェックボックスがオンになっている場合は、SiteScope モニターに関連付けられたノードが NNMi トポロジ内にあることを確認します。  
SiteScope トラップ設定によって、ソースオブジェクトとして SiteScope サーバーと管理対象ホストのどちらが設定されるかが決まります。
- 4 SiteScope ユーザーインターフェイスで、HP SiteScope イベントトラップに関する SNMP トラップ設定の内容を確認します。
- 5 SiteScope ユーザーインターフェイスで、予期される各モニターアラートで SNMP トラップ設定がアラートアクションターゲットとして設定されていることを確認します。
- 6 SiteScope ユーザーインターフェイスで、テストトラップを HP NNMi に送信します。

## HP SiteScope が SiteScope インシデントの URL から正常に開かない

[インシデント] フォームの [カスタム属性] タブに表示される .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIA の URL から HP SiteScope が正常に起動しない場合は、以下の手順を実行してください。

- 1 SiteScope ユーザーインターフェイスへのアクセスを確認します。
  - a 新しいブラウザウィンドウで、SiteScope ユーザーインターフェイスを直接開きます。  
SiteScope ユーザーインターフェイスが正常に動作しない場合は、ブラウザの設定が『HP SiteScope リリースノート』(HP SiteScope Release Notes) に記載されている要件を満たすことを確認します。
  - b .1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIA からブラウザのアドレスフィールドに URL をコピーします。ログオン資格証明を削除します。SiteScope のログオンウィンドウで、SiteScope ログオン情報を入力します。
- 2 URL に含まれる SiteScope 統合ビューアーのユーザー資格証明を確認します。  
.1.3.6.1.4.1.11.15.1.2.1.4 CIA からブラウザのアドレスフィールドに URL をコピーします。(ログオン資格証明を保持します)。

このテストに失敗する場合は、SiteScope 管理者に統合ビューアーユーザーのステータスについて問い合わせてください。統合ビューアーユーザーのパスワードを最近変更した場合、パスワードの変更前に存在した SiteScope への URL は使用できません。

## HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックスの統合

この項では以下の内容について説明します。

- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックスの統合について ページ 15](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックス統合の有効化 ページ 17](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックス統合の使用法 ページ 20](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックス統合の変更 ページ 23](#)
- [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックス統合の無効化 ページ 24](#)
- [\[HP NNMi–HP SiteScope System Metrics の統合設定\] フォームのリファレンス ページ 28](#)

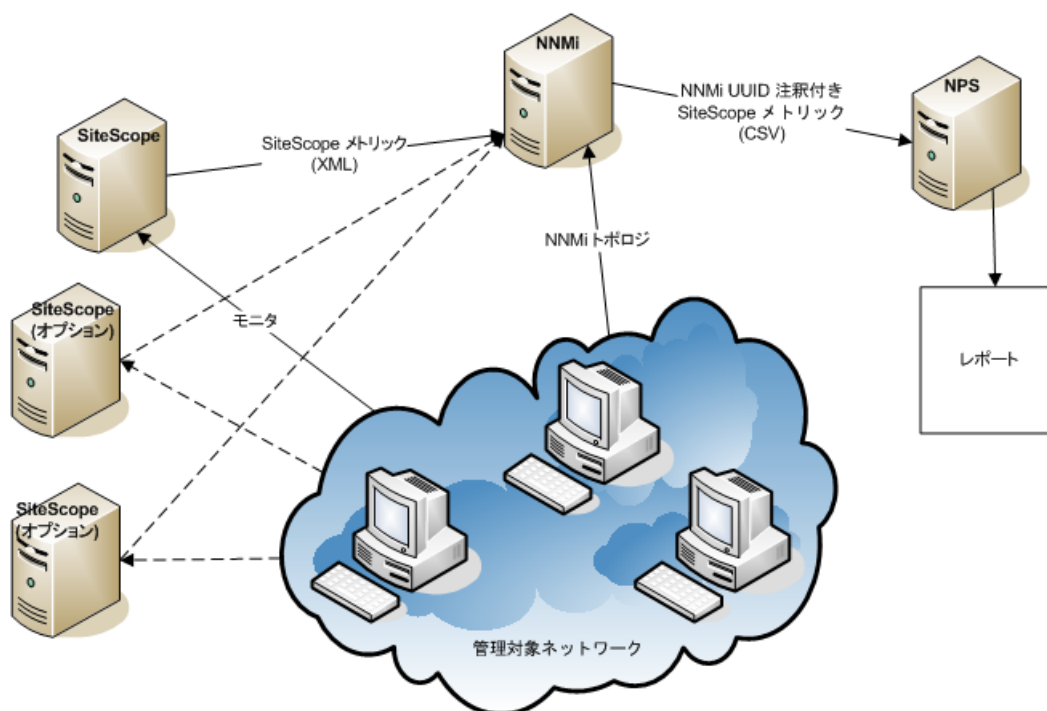
### HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックスの統合について

HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックスの統合では、SiteScope モニターで収集されたメトリックスデータが HP NNM iSPI Performance for Metrics Network Performance Server (NPS) に入力されます。この統合では、データを以下のように処理します。

- 1 HP SiteScope はモニターデータを XML ファイルに収集し、SiteScope データ統合設定のレポート間隔で収集したデータを HP NNMi に渡します。
- 2 HP NNMi は SiteScope データに NNMi ノードの UUID を追加します。
- 3 HP NNMi は、NPS が取得できるように設定された場所に追加されたデータを配置します。
- 4 NPS は、NPS 累積間隔で追加されたデータを取り込みます。

図 2 に HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合のデータフローを示します。

図 2 HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合のデータフロー



## 価値

HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合により、SiteScope で収集したメトリックスデータのレポートを NPS で作成できます。

## 統合製品

このセクションの情報は、以下の製品に当てはまります。

- HP SiteScope



サポートされるバージョンは、NNMi システムとデバイス対応マトリックスにリストされています。

- NNMi 10.10

- HP NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 10.10:



この統合には、HP NNM iSPI Performance for Metrics ライセンスが必要です。

HP NNMi、HP NNM iSPI Performance for Metrics、および HP SiteScope は、同一のコンピューターまたは異なるコンピューターにインストールできます。

サポートされているハードウェアプラットフォームおよびオペレーティングシステムの最新情報については、すべての製品の対応マトリックスを参照してください。



## サポートされる SiteScope モニター

HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合では、以下のタイプの SiteScope モニターからのデータを認識します。

- CPU 使用率モニター
- 動的ディスク容量モニター
- ディスク容量モニター
- メモリーモニター
- Microsoft Windows リソースモニターのプロセス監視対象オブジェクト
- Linux リソースモニターのプロセスモニタリング対象オブジェクト

監視対象ノードは、HP NNMi で管理する必要があります。この統合では、NNMi トポロジに存在しないノードと管理対象外のノードのデータを破棄します。

## ドキュメント

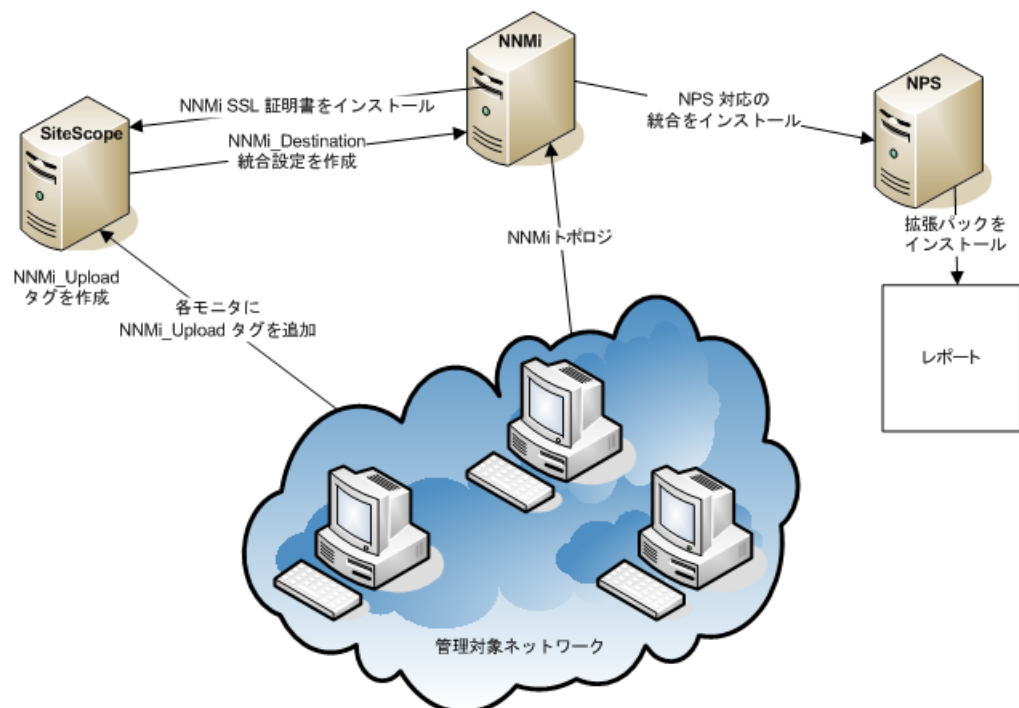
このセクションでは、HP SiteScope と通信するように HP NNMi を設定する方法と、SiteScope が収集したデータから作成可能な NPS レポートについて説明します。

SiteScope モニターの設定方法については、SiteScope 製品メディアに収録されている『HP SiteScope SiteScope の使用法ガイド』(HP SiteScope Using SiteScope Guide) で説明されています。



## HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の有効化


図 3 に HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の設定ポイントを示します。

図 3 HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の設定ポイント



HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックス統合を有効にするには、以下の手順を実行します。

- 1 NNMi コンソールで、SiteScope システムメトリックス統合パックを使用し、統合を有効にして NPS を設定します。
  - a オプション。NNMi コンソールに接続するためにこの統合で使用する、Web Service Client ロールの NNMi ユーザーを作成します。  
または、この統合で Web Service Client ロールの既存ユーザーを使用できます。
  - b [HP NNMi–HP SiteScope システムメトリックスの統合設定] フォームを開きます ([統合モジュールの設定] > [HP SiteScope システムメトリックス])。
  - c [統合の有効化] チェックボックスをオンにします。
  - d NNMi 管理サーバーへの接続情報を入力します。これらのフィールドの詳細については、[HP NNMi–HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームのリファレンス ページ 28 を参照してください。
  - e フォームの下部にある [送信] をクリックします。  
ウィンドウにステータスメッセージが表示されます。NNMi 資格証明に問題があることを示すメッセージが表示されたら、[戻る] をクリックして、エラーメッセージを参考に値を調整してください。
  - f 結果ウィンドウから、データ統合 URL を一時的な場所にコピーします。この値は HP SiteScope を設定するときに使用します。
- 2 SiteScope ユーザーインターフェイスで、HP NNMi と SSL 通信するように SiteScope サーバーを設定します。
  - a [設定] ワークスペースで、[証明書管理] ページを開き、[証明書のインポート]  をクリックします。
  - b [ソースの選択] で、HP SiteScope に対して NNMi 管理サーバーを特定する情報を指定します。
    - [ホスト] が選択されていることを確認してから、NNMi 管理サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
    - 必要に応じて、NNMi 管理サーバーの HTTPS ポートと一致するようにポート番号を変更します。  
詳細については、NNMi ポート ページ 28 を参照してください。
  - c [ロード] をクリックします。  
NNMi 証明書情報は、[ロード済み証明書] の下に表示されます。証明書のエイリアスを記録します。
  - d NNMi 証明書を選択し、[インポート] をクリックします。  
NNMi 証明書の一覧は、[証明書管理] ページに表示されます。
- 3 SiteScope ユーザーインターフェイスで、NNMi ターゲットを識別するのに使用する検索/フィルタータグを作成します。
  - a [設定] ワークスペースで、[検索/フィルタータグ] ページを開き、[新規タグ]  をクリックします。
  - b タグ名 (たとえば、NNMi\_upload) と少なくとも 1 つの値を入力します。

- 4 SiteScope のユーザーインターフェイスで、HP SiteScope と HP NNMi の間の接続を設定します。
  - a [設定] ワークスペースで、[統合設定] ページを開き、[新規統合]  をクリックして、[データ統合] をクリックします。
  - b [一般設定] で、名前 (たとえば、NNMi\_receiver) とオプションの説明を入力します。
  - c [データ統合の優先設定] で、以下の設定を行います。
    - [レシーバーの URL] フィールドに、この手順の [手順 1](#) の最後に保存した URL を貼り付けます (例: https://nnmi\_server.example.com:443/sitescope-adapter/sitescopereceiver)。
    - [GZIP 圧縮] チェックボックスをオンにします。
    - [追加データを含める] と [リダイレクトのエラー] チェックボックスをオフにします (これらはデフォルト設定です)。
    - [要求時に認証] チェックボックスをオンにします。(これはデフォルト設定です)。
    - [統合を無効化] チェックボックスをオフにします。(これはデフォルト設定です)。

その他のすべての設定については、デフォルトの設定を受け入れます。
  - d [Web サーバーのセキュリティ設定] の下で、[手順 1](#) の統合設定フォームで指定した NNMi ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
  - e [レポートタグ] の下で、[手順 3](#) で作成した検索/フィルタータグ (たとえば、NNMi\_upload) を選択します。
- 5 SiteScope ユーザーインターフェイスで、NPS の SiteScope レポートに情報を提供するモニターを設定します。
  - a 必要に応じて、新規モニターを作成するか、サポートされるタイプの既存のモニターを特定します。
    - CPU 使用率モニター
    - ディスク容量モニター
    - メモリーモニター
    - Microsoft Windows リソースモニターのプロセス監視対象オブジェクト
    - Linux リソースモニターのプロセスモニタリング対象オブジェクト
  - b [手順 3](#) で作成した検索/フィルタータグ (たとえば、NNMi\_upload) を、HP NNMi にデータを渡すモニターに追加します。
 

この統合では、NNMi トポロジ内の管理対象ノードのデータのみを処理できます。したがって、NNMi トポロジ内のノードのモニターにのみタグを適用します。
  - c 推奨。HP NNMi にデータを渡すモニターを 1 つのモニターグループに集めます。

## HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の使用法

HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合により、NPS で以下の SiteScope モニターレポートを作成できます。

- カレンダー
- チャート詳細
- ヒートチャート
- 管理対象インベントリ
- 最大変化
- ピーク期間
- しきい値スリーブ
- 上位 N
- 上位 N チャート

SiteScope システムメトリックスレポートにアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 1 NNMi コンソールで、[アクション]>[レポート-レポートメニュー]をクリックします。
- 2 NPS の [レポート] ワークスペースで、[SiteScope システムメトリックス]> [SiteScope] > [System\_Metrics] フォルダを開きます。

### ベストプラクティス

以下のヒントを SiteScope システムメトリックスレポートに適用できます。

- 上位 N などの一部のレポートでは、SiteScope モニターの 1 つのタイプを対象にしたレポートのほうが、複数のモニタータイプについてのレポートより容易に解釈できます。トポロジフィルターで、[ComponentType] 属性として 1 つの値を選択します。
- [ノード名] 属性が設定されていない場合、レポートには、選択したタイプのすべてのモニターのデータが含まれます。1 つ以上の特定のノードにレポートデータを限定するには、それに応じて [ノード名] 属性を設定します。[ComponentType] 属性を設定すると、[ノード名] 選択リストには、選択したモニタータイプを含むノードのみが表示されます。
- Windows リソースモニターについてのレポートの場合は、Idle on および \_Total on データをフィルターで除去するのが効果的です。それには、トポロジフィルターで、[ComponentName] 属性を \_Total on および Idle on と異なる値に設定します。

表 2 に、統合によって追加されるグループ化オプションの一覧を示します。

表 2 使用可能なレポートグループ化オプション

オプション名	説明
Windows プロセス - プロセスの作成	測定対象プロセスを作成した親プロセスのプロセス ID (PID) を識別する整数値。
Windows プロセス - ID プロセス	測定対象プロセスのプロセス ID (PID) を識別する整数値。

表2 使用可能なレポートグループ化オプション(続き)

オプション名	説明
Linux プロセス - PID	測定対象プロセスのプロセス ID (PID) を識別する整数値。
Linux プロセス - ユーザー	測定対象プロセスの Linux ユーザー ID (uid) を識別する整数値。
修飾コンポーネント名	メトリックス名と、メトリックスを収集したノードを識別する文字列値。修飾コンポーネント名の形式は、<metric_name> on <node_long_name> (例: disk percent full on device.example.com) です。 修飾コンポーネント名は、推奨されるグループ化オプションの選択肢です。

表3に、統合によって追加されるメトリックスの一覧を示します。各メトリックスについて、実際の値をレポートするように選択できます。メトリックスが多い場合は、しきい値情報もレポートできます。レポート値の解釈の詳細については、各オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

表3 報告可能な SiteScope システムメトリックス

モニタータイプ	使用可能なメトリックス
CPU 使用率 <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CPU 使用率</li> </ul>
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空きディスク MB</li> <li>• ディスク割合 (フル)</li> </ul>
メモリー <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• メモリーページ/秒</li> <li>• 仮想メモリー使用率</li> <li>• 空き仮想メモリー MB</li> <li>• スワップメモリー使用率</li> <li>• 空きスワップメモリー MB</li> <li>• 物理メモリー使用率</li> <li>• 空き物理メモリー MB</li> </ul>

表 3 報告可能な SiteScope システムメトリックス ( 続き )

モニタータイプ	使用可能なメトリックス
Microsoft Windows のリソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows プロセス - 権限時間の割合</li> <li>• Windows プロセス - プロセッサ時間の割合</li> <li>• Windows プロセス - ユーザー時間の割合</li> <li>• Windows プロセス - プロセス ID の作成</li> <li>• Windows プロセス - 経過時間</li> <li>• Windows プロセス - 処理数</li> <li>• Windows プロセス - ID プロセス</li> <li>• Windows プロセス - IO データ ( バイト / 秒 )</li> <li>• Windows プロセス - IO データ操作 / 秒</li> <li>• Windows プロセス - その他の IO データ ( バイト / 秒 )</li> <li>• Windows プロセス - その他の IO 操作 / 秒</li> <li>• Windows プロセス - IO 読み取り ( バイト / 秒 )</li> <li>• Windows プロセス - IO 読み取り操作 / 秒</li> <li>• Windows プロセス - IO 書き込み ( バイト / 秒 )</li> <li>• Windows プロセス - IO 書き込み操作 / 秒</li> <li>• Windows プロセス - ページ障害</li> <li>• Windows プロセス - ページファイル ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - ピーク時のページファイル ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - 非ページプール ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - ページプール ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - 優先度ベース</li> <li>• Windows プロセス - プライベート ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - スレッド数</li> <li>• Windows プロセス - 仮想 ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - ピーク時の仮想 ( バイト )</li> <li>• Windows プロセス - ワーキングセット</li> <li>• Windows プロセス - プライベートワーキングセット</li> <li>• Windows プロセス - ピーク時のワーキングセット</li> </ul>
Linux のリソース <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Linux プロセス - CPU 割合</li> <li>• Linux プロセス - Memsize</li> <li>• Linux プロセス - Number_Running</li> <li>• Linux プロセス - PID</li> <li>• Linux プロセス - ユーザー</li> </ul>

表 3 報告可能な SiteScope システムメトリックス ( 続き )

モニタータイプ	使用可能なメトリックス
	<p>1 HP SiteScope では、Linux および AIX オペレーティングシステムで収集した CPU 使用率データを、特定の CPU 単位ではなく、システム全体で単一の平均値として要約します。この統合では平均値を NPS に送信しないため、Linux および AIX オペレーティングシステムでは CPU 使用率データを使用できません。</p> <p>2 HP SiteScope は、すべてのオペレーティングシステムでこれらのメトリックスをすべて収集するわけではありません。</p> <p>3 Linux オペレーティングシステムの Linux リソースモニターの場合、HP SiteScope は CPU 割合、実行数、プロセス ID のみを収集します。Linux ノードのメモリーサイズとユーザーデータは使用できません。</p>

## HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の変更

HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合は、以下の方法で変更できます。

- HP NNMi から NPS への接続の変更
- HP SiteScope から HP NNMi への接続の変更

### HP NNMi から NPS への接続の変更

NPS への接続情報を変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 NNMi コンソールで **[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定]** フォームを開きます ([ **統合モジュールの設定** ] > [ **HP SiteScope System Metrics** ])。
- 2 該当するように値を変更します。このフォームのフィールドの詳細は、[\[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定\]](#) フォームのリファレンス ページ 28 を参照してください。
- 3 フォームの上部にある **[統合の有効化]** チェックボックスがオンであることを確認し、フォームの下部にある **[送信]** をクリックします。

変更はただちに有効になります。有効にすると、**[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定]** フォームに表示されるデータ統合 URL が更新されます。この URL が変更された場合は、19 ページの [手順 4](#) に記載されているとおりに SiteScope のデータ統合設定を更新します。

### HP SiteScope から HP NNMi への接続の変更

SiteScope データレシーバーの情報を変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 SiteScope インタフェースで HP SiteScope と HP NNMi の間の接続を定義するデータ統合を開きます ([ **設定** ] > [ **統合設定** ])。
- 2 該当するように値を変更します。このフォームのフィールドの詳細については、SiteScope ヘルプを参照してください。
- 3 **[統合を無効化]** チェックボックスがオフになっていることを確認して、フォームの下部にある **[OK]** をクリックします。

変更はただちに有効になります。

## HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合の無効化

HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合を完全に無効化するには、以下の両方の手順を実行します。

- HP NNMi から NPS への接続の無効化
- HP SiteScope から HP NNMi への接続の無効化

### HP NNMi から NPS への接続の無効化

HP NNMi による SiteScope のモニターデータの処理を停止するには、以下の手順を実行します。

- 1 NNMi コンソールで **[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定]** フォームを開きます ([ **統合モジュールの設定** ] > [ **HP SiteScope System Metrics** ] )。
- 2 フォームの上部にある **[統合の有効化]** チェックボックスをオフにし、フォームの下部にある **[送信]** をクリックします。  
変更はただちに有効になります。

### HP SiteScope から HP NNMi への接続の無効化

HP SiteScope から NNMi 管理サーバーへのモニターデータの送信を停止するには、以下の手順を実行します。

- 1 SiteScope インタフェースで HP SiteScope と HP NNMi の間の接続を定義するデータ統合を開きます ([ **設定** ] > [ **統合設定** ] )。
- 2 **[統合を無効化]** チェックボックスをオンにして、フォームの下部にある **[OK]** をクリックします。  
変更はただちに有効になります。

## HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合のトラブルシューティング

XML 解析エラーや、NNMi トポロジに存在しないノードのモニターデータの情報を含む、SiteScope データの処理に関連するメッセージは NNMi 管理サーバー上の `nnm.0.0.log` ファイル (これより古いファイルも含む) に記録されます。NNMi 管理サーバー上で問題が発生する場合、それらのログファイルから文字列 `com.hp.ov.nnm.sitescope.im` または `com.hp.ov.nms.im.sitescope` で始まるクラスに対する **SEVERE** (重大) メッセージおよび **WARNING** (警告) メッセージを探してください。詳細については、『NNMi デプロイメントリファレンス』の「NNMi ロギング」を参照してください。

SiteScope ログファイルには、データ統合の問題に関するメッセージが収集されます。SiteScope ログファイルを調べて、以下の設定問題の 1 つ以上が原因で発生しやすいデータ送信エラーがないか探してください。

- 証明書エラー。NNMi の証明書が HP SiteScope に正しくロードされていません。
- ユーザー名とパスワードの認証エラー。NNMi コンソールの **[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定]** フォームで **[NNMi ユーザー]** と **[NNMi パスワード]** の値のいずれか、または両方が正しくありません。



- 統合モジュールの有効化エラー。NNMi コンソールの [HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームで [統合の有効化] チェックボックスがオフになっています。

SiteScope ログファイルの詳細については、SiteScope のマニュアルを参照してください。

この項では以下の内容について説明します。

- [統合データフローを確認する](#) ページ 25
- [統合設定の HP NNMi 側の確認](#) ページ 26
- [ファイアウォールの背後の NAT 構成環境にノードのレポートデータが存在しない](#) ページ 27

## 統合データフローを確認する

### SiteScope からの XML ファイル

システムメトリクス統合では、SiteScope データサンプルは NNMi 管理サーバー上の以下のディレクトリに \*.gz ファイルで保存されます。

- **Windows:**  
%NnmDataDir%\shared\perfspi\datafiles\metric\working\sitescope
- **Linux:**  
\$NnmDataDir/shared/perfspi/datafiles/metric/working/sitescope

デフォルトで、システムメトリクス統合は新しいファイルをこのディレクトリに毎分配置し、HP NNMi は 5 分ごとにそれらのファイルを取り込みます。



HP SiteScope がシステムメトリクス統合にデータサンプルを送信する頻度は、SiteScope データ統合設定のレポート間隔によって決まります。NNMi の使用率をユーザーが設定することはできません。

sitescope ディレクトリが 2 分を超えて空のままの場合は、HP SiteScope からファイルが送信されていません。この場合は、以下を実行します。

- 1 SiteScope ユーザーインタフェースで、データ統合設定が有効であり、19 ページの [手順 4](#) の説明に従って設定されていることを確認します。  
また、[ [レポート間隔](#) ] フィールドの値も確認します。
- 2 SiteScope ユーザーインタフェースで、少なくとも 1 つのモニター設定に、データ統合設定に関連付けられた検索/フィルタータグがあることを確認します。

sitescope ディレクトリにファイルが累積されると、HP NNMi はファイルを取り込まなくなります。この場合は、NNMi コンソールで HP NNMi-HP SiteScope システムメトリクス統合が正しく設定されていることを確認します。詳細については、[統合設定の HP NNMi 側の確認](#) ページ 26 を参照してください。

### NNMi からの CSV ファイル

HP NNMi は、NPS で使用する SiteScopeMetrics\_\*.csv.gz ファイルを NNMi 管理サーバー上の以下のディレクトリに保存します。

- **Windows:** %NnmDataDir%\shared\perfspi\datafiles\metric\final
- **Linux の場合:** \$NnmDataDir/shared/perfspi/datafiles/metric/final

HP NNMi は、およそ 5 分ごとに新しいファイルをこのディレクトリに配置し、NPS はこれらのファイルをおよそ 5 分ごとに取り込みます。



NNMi の配置率をユーザーが設定することはできません。NPS の累積率により、NPS がこのディレクトリのファイルを取り込む頻度が決まります。NPS 累積率は HP NNM iSPI Performance for Metrics によって設定されます。ユーザーが設定することはできません。

final ディレクトリが 10 分より長い間空の状態になると、HP NNMi はファイルを配信しなくなります。この場合は、NNMi コンソールで HP NNMi-HP SiteScope システムメトリックス統合が正しく設定されていることを確認します。詳細については、[統合設定の HP NNMi 側の確認](#) ページ 26 を参照してください。

final ディレクトリにファイルが累積されると、NPS はファイルを取り込まなくなります。その場合は、NPS のトラブルシューティングのマニュアルを参照してください。

## レポート

ファイルが final ディレクトリを通過してから 2 時間以内に NPS ユーザーインターフェースで SiteScope レポートが使用可能にならない場合、この統合は正しく設定されていません。この場合は、HP SiteScope と NNMi の ovjboss プロセス、NPS を再起動します。

- 1 HP SiteScope を再起動します。
  - Windows:
    - [サービス] コントロールパネル ([スタート]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]) を開きます。
    - サービスのリストで、[SiteScope] を右クリックし、[開始] をクリックします。
  - Linux または Solaris の場合:
    - SiteScope がインストールされているサーバーで、ターミナルウィンドウを開きます。
    - 以下の構文を使用して、start コマンドのシェルスクリプトを実行します。  
`<installpath>/SiteScope/start`
- 2 以下のコマンドを実行して HP NNMi を再開します。
  - a `ovstop`
  - b `ovstart`
- 3 NPS を再起動します。

## 統合設定の HP NNMi 側の確認

- 1 NNMi コンソールで [HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームを開きます ([統合モジュールの設定]>[HP SiteScope System Metrics])。

このフォームのフィールドの詳細は、[\[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定\] フォームのリファレンス](#) ページ 28 を参照してください。

- 2 統合のステータスを確認するには、[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームで、フォーム下部にある [送信] をクリックします (設定の変更は行いません)。

ウィンドウにステータスメッセージが表示されます。

- 3 NNMi への接続が正常に設定されていることを確認します。



この手順の [手順 1](#) で NNMi コンソールに接続するために、この手順で説明してある情報を使用した場合は、NNMi コンソールに再接続する必要はありません。 [手順 4](#) を継続します。

- a Web ブラウザーで、次の URL を入力します。

`<protocol>://<NNMIserver>:<port>/nnm/`

ここで、各変数は [HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームの値と次のように関係します。

- [NNMi SSLの有効化] チェックボックスがオンの場合、<protocol >は https です。
  - [NNMi SSLの有効化] チェックボックスがオフの場合、<protocol >は http です。
  - <NNMIservers> は [NNMi ホスト] の値です。
  - <port> は [NNMi ポート] の値です。
- b プロンプトが表示されたら、管理者ロールで NNMi ユーザーの資格認定を入力します。
- NNMi コンソールが表示されるはずですが、NNMi コンソールが表示されない場合は、HP NNMi への接続に使用している情報が正しいかどうかを NNMi 管理者に確認します。NNMi コンソールが表示されるまで、HP NNMi への接続のトラブルシューティングを継続します。
- ▶ 「Web サービスクライアント」ロールを持つユーザーとして NNMi コンソールにログオンすることはできません。
- c NNMi 管理者に連絡して、Web サービスクライアントロールを持つ NNMi 統合ユーザーの [NNMi ユーザー] と [NNMi パスワード] の値を確認します。
- パスワードは NNMi コンソールでは非表示です。NNMi ユーザー名のパスワードが何か確信がない場合は、NNMi 管理者に問い合わせるか、またはパスワードをリセットします。
- 4 この手順の **手順 3** で正常に接続できたときに使用した値で [HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームを更新します。
- 詳細については、[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームの **リファレンス ページ 28** を参照してください。
- 5 フォームの下部にある [送信] をクリックします。
- 6 ステータスメッセージに問題があることがまだ表示される場合は、以下の手順を実行します。
- a Web ブラウザーのキャッシュをクリアします。
  - b Web ブラウザーから、すべての保存フォームまたはパスワードデータをクリアします。
  - c Web ブラウザーウィンドウを完全に閉じてから、もう一度開きます。
  - d この手順の **手順 4** と **手順 5** を繰り返します。
- 7 **統合データフローを確認する** ページ 25 の説明に従って、SiteScope モニターデータの転送をモニタリングして設定をテストします。

## ファイアウォールの背後の NAT 構成環境にノードのレポートデータが存在しない

ネットワークアドレス変換 (NAT) 環境において、SiteScope サーバーが、ファイアウォールの背後に展開されている場合に、ファイアウォールの外部に重複する IP アドレスを持つノードのデータをレポートしても、HP NNMi は監視対象のノードを判別できません。この場合、この統合では、これらのノードの SiteScope データを NPS に提供しないため、NPS のレポートにこの情報は含まれません。

## [HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームのリファレンス

[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームには、HP NNMi と HP SiteScope 間の通信を設定するパラメーターが含まれています。このフォームは、[統合モジュールの設定] ワークスペースから使用できます。



[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームにアクセスできるのは Administrator ロールを持つ NNMi ユーザーのみです。

[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームでは、NNMi 管理サーバーを識別するための情報を収集します。

統合設定に変更を適用するには、[HP NNMi-HP SiteScope System Metrics の統合設定] フォームの値を更新し、[送信] をクリックします。

表 4 に、NNMi 管理サーバーへの接続パラメーターをリストします。これは NNMi コンソールを開くために使用したのと同じ情報です。これらの値の多くを決定するには、NNMi コンソールセッションを起動する URL を調べます。NNMi 管理者と協力し、設定フォームのこのセクションに適切な値を決定します。

表 4 NNMi 管理サーバー情報

フィールド	説明
NNMi SSL 有効化	<p>接続プロトコル指定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTPS を使用するように NNMi コンソールが設定されている場合は、[NNMi SSL の有効化] チェックボックスをオンにします。</li> <li>• HTTP を使用するように NNMi コンソールが設定されている場合は、[NNMi SSL の有効化] チェックボックスをオフにします。</li> </ul>
NNMi ホスト	<p>NNMi 管理サーバーの完全修飾ドメイン名。このフィールドには、NNMi コンソールへのアクセスに使用するホスト名があらかじめ入力されています。この値が NNMi 管理サーバー上で <code>nnmofficialfqdn.ovpl -t</code> コマンドを実行したときに返される名前であることを確認します。</p>
NNMi ポート	<p>NNMi コンソールに接続するためのポート。このフィールドには、次のファイルで指定されているように、NNMi コンソールとの通信のために jboss アプリケーションサーバーが使用するポートがあらかじめ記入されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>Windows</i>: %NnmDataDir%\conf\nnm\props\nms-local.properties</li> <li>• <i>Linux</i>: \$NnmDataDir/conf/nnm/props/nms-local.properties</li> </ul> <p>NNMi コンソールから NNMi ポートの値を変更することはできません。</p> <p>SSL 以外の接続では、<code>nmsas.server.port.web.http</code> の値を使用します。これはデフォルトでは 80 または 8004 です (HP NNMi がインストールされたときに別の Web サーバーが存在するかどうかで、どちらかが決まります)。</p> <p>SSL 接続には、<code>nmsas.server.port.web.https</code> の値を使用します。これはデフォルトでは 443 です。</p>
NNMi ユーザー	<p>NNMi コンソールに接続するためのユーザー名。このユーザーには、Web Service Client ロールが必要です。</p>
NNMi パスワード	<p>指定の NNMi ユーザーのパスワード。</p>

# フィードバックをお待ちしております。

ご使用のシステムに電子メールクライアントが設定されている場合は、デフォルトで、ここをクリックすると電子メールウィンドウが開きます。

使用可能な電子メールクライアントがない場合は、Web メールクライアントの新規メッセージに以下の情報をコピーして、**network-management-doc-feedback@hpe.com** にこのメッセージを送信してください。

**製品名およびバージョン:** NNMi 10.10

**ドキュメントタイトル:** HP Network Node Manager i Software - HP SiteScope 統合ガイド、2015年11月

**フィードバック:**